

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100016		
法人名	社会福祉法人 恵優会		
事業所名	グループホーム青葉町日和		
所在地	甲府市青葉町14-15		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様本人の力、家族の力を得、地域との連携を大切にしながら、利用者様本人の尊厳を大切にしつつ、住み慣れた地域での利用者様らしい暮らしを支援してゆく。そしてその事を職員一人一人が理解し、協調しながら利用者様の尊厳、生活を支えてゆくようにしている。一人一人にとって居心地の良い場所を作り、生きる喜びを支援して行く。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府市の市街地にあるが、周囲には市営グラウンド等があり静かな環境である。小規模多機能型居宅介護とデイサービスが併設され、グループ全体の運営や災害時の対策、防災訓練等で連携している。民生委員、自治会、消防団等とも行事の折に交流している。、ボランティア受入れ、防災訓練をとおして交流し、地域の一員として連携している。24時間体制の協力医やホームドクターの定期的な往診が行われ、利用者や家族が安心して生活できる医療体制が整っている。また、管理者、職員は利用者一人ひとりの個性を尊重し、希望や意向に沿った生活ができるように配慮し支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年11月28日(月)		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム青葉町日和

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義、グループホームの理念を職員がしっかりと理解するように図っている。また、ミーティングを行って、全員のスタッフが互いに情報共有する事が心がけている。	事業所独自の理念である「住みなれた地域で自分らしい暮らしを支えていく」「その人らしさを大切に当たりまえの日常を支えていく」を事務室に掲示して、月1回の職員ミーティングで共有し、理念に基づく行動が出来るように常に確認している。散歩を通じて利用者と会話を交わす等、地域と繋がっていくように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会長、民生委員の協力を得ながら、地域のお祭りや運動会など、地域の行事へ参加するなどしている。	自治会に加入し避難訓練、地域の祭り等に参加し、地域住民や子供たちと交流する機会がある。また、近所の商店から商品を配達してもらったり、利用者が買い物に行く折には、店内で近所の人と話す等、地域の一人として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元自治体と共に防災訓練を行った。また、地域で開かれるお祭りや運動会などへの参加を通じて、理解や支援の方法を地域に向けて発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見や質問を、ミーティングなどの機会に議論し、その結果は議事録の形で回覧して周知を図っている。	会議は2か月に1回実施している。看取りについては、今後の課題を、知見者として出席している他の事業所から防災訓練の様子など聞き、情報交換をしている。また、サービス評価の報告、話し合いを行い、欠席者には議事録を郵送し意見をもらうようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護施設とグループホームとが合同で作成した会議の議事録を、市町村に郵送している。	介護認定の更新の機会等に、市担当者へ利用者に関する相談や暮らしぶりを伝え、情報を共有している。また、災害時の要援護者の受け入れ施設としている。甲府市笑顔ふれあいサポーター・介護相談員の受け入れを行うなど、連携を図り協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどの機会を通じて、身体拘束防止の為に勉強会を実施している。また、マニュアルはいつでも閲覧できるようにしている。	月1回の職員ミーティング時に具体例を挙げて検討し、勉強会をしている。スピーチロックをしないケアに取り組むためにマニュアルの共有だけでなく、気づいた時は職員同士その都度注意を促している。支援方法に迷うような時は上司に相談し、身体拘束をしないケアの理解と実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の業務の中で職員同士が注意しあえるようにしているほか、マニュアルを用いたり、勉強会を実施したりするなどしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要となった場合には、制度の活用方法や申し立ての仕方などを説明している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの役割や契約の内容について、見学の段階から丁寧な説明を行っている。また、家族の要望もきちんと伺っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族会を年に二回、実施している。そしてその際にアンケートを行って、ご家族からの意見や要望を聞く事が出来るようにしている。	年2回行われる家族会、イベントの折などに家族アンケートを実施して意見を聞いている。家族からの要望で外出を多くして欲しい、利用者からは花屋に行きたい等の意見があり、利用者から月1回要望を聞く機会を持っている。管理者・職員はそれらの意見を運営に反映させ、外出の様子は毎月「日和便り」で家族に知らせている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム青葉町日和

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤会議を月に一度開催し、法人内での連絡や報告、相談が相互に可能にしている。そしてスタッフミーティングを設けて職員全員が出席し、意見交換の場を作っているほか、スタッフミーティングに出席できなかった場合でも申し送りによって情報共有を図っている。	月1回グループ全体の常勤職員会議を実施し、運営・異動等について報告をし、非常勤職員の意見も会議の中で伝える。スタッフミーティングでは夜勤の際、居室ドアの音が大きい、収納スペースが欲しい、勤務時間の変更をしたい等の意見について対応し改善した。年1回個別面接があり、意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面接を行って意見を聞き、長く就労できるような条件の整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会へ参加して広く職員の交流がもてるようにし、講演会への参加も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ参加し、講演を聞き、他のグループホームの職員との交流を持てるよう図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前に見学してもらい、説明を行っている。また、病院や自宅に職員が面接に行っている。生活歴の聞き取りなども行い、入居後の不安がないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族からの要望や意見を聞き、情報収集なども行って信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様本人に合ったサービスを提供できるよう、検討を重ねている。硬縮を予防する目的で、訪問マッサージなども実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事を見極めて、促しや声掛けをしながら、自分で出来る支援を常に心がけている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した時は、家族と共に過ごす時間を大切に出来るようにし、離れている家族とも定期的な電話連絡などによって交流が図れるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟姉妹、家族と近所の人との定期的な面会を自室で一緒に過ごしている。	入居前からの友人、兄弟姉妹や民生委員の定期的な面会がある。また家族と墓参り、お茶、食事、紅葉見物等に行く事がある。独居だった人も大家さんや働いていた所の家族の面会があったりと、継続的な交流ができるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム青葉町日和

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や散歩、テレビ鑑賞、お茶の時間に一緒に過ごす時間を共有し、楽しみながら関係づくりが出来るよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族と連絡を取り合い、相談、支援を行う事もある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちに寄り添い、話しが出来るような時間を作り、その人らしい生活が出来るよう支援している。	日常の関わりや会話の中で、特に昼食後や入浴時のゆったりした時間帯に利用者と会話する機会を作り、一人ひとりの思いや希望を汲み取っている。把握が困難な場合は家族から情報を得ようとしている。日常の様子は申し送りノートで情報を全職員で共有し、支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況の情報を収集し、アセスメントを行い、その人らしい生活が出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の体調を把握し、スタッフ全員情報を共有しながら業務に入っ、対応できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行い、更新時には家族、職員、主治医に意見を伺い、担当者会議も行っている。	利用者・家族の面会時にアセスメントを行って暫定プランを作成し、1か月後、経過を踏まえて利用者、家族の意向を反映させた介護計画を作成している。身体状態に変化が生じた場合は、その都度職員全員で話し合い、モニタリングに基づいた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人スタッフが情報の共有が出来るように、ケース記録、業務日誌、申し送りノートを活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の祭りや、餅つきなどの合同レクリエーションに参加したり、本人の希望を聞きながら、帰宅や外出なども出来るよう支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員と交流、地元自治体主催の行事への参加、地元売店での買い物などによって、地域社会との交流を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターの往診を中心に、入居前からの主治医を希望する場合は、家族同行をお願いしている。利用者全員、年一回の健康診断を実施し、主治医には内服変更など、利用者の状況を随時提供している。	月2回、ホームドクターの往診がある。ほとんどの利用者が協力医を主治医としており、24時間体制(夜間・土日可)なので、急な受診にも対応してもらえる。職員が受診に同行する場合は、家族に受信結果を報告している。家族対応でかかりつけ医を受診する場合は、相互に受診に関する情報を共有している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム青葉町日和

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師によって、介護職の出来ない、洗濯などを適宜実施して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族と同行したり、往診時には家族の同席をお願いしている。緊急時は主治医に電話で相談し、状態により、主治医より病院の紹介をお願いしている。病院とは随時情報交換をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について契約時から話し合い、ご家族の協力の在り方や希望を聞きながら方針を決めていく。	看取りの指針があり、入居時に家族に説明している。契約時から話し合い、家族の協力の在り方や希望を聞きながら方針を決めている。事業所では、家族・主治医・訪問看護など関係者等と連携を図りながらの看取りの経験があり、職員も看取り対応についての不安もなく、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングで事故の発生時の対応について説明している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内にて合同で、年四回、避難訓練をしている。非常時の水や食料の備蓄も行っている。被災者を10名まで受け入れることになっている。	法人内で火災・地震の非難訓練を各2回行い、全職員が夜間想定訓練を行っている。近所の消防団員から避難方法、消火器の取り扱い指導を受け、非常時の場合は、団員が地域の団員に連絡する体制となっている。訓練の記録をつけて問題点を見つけ、次に繋げている。また、事業所は要援護者の避難施設となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬を守り、敬う言葉がけをするように、常にスタッフ全員で意識づけをしている。	施設は自宅の延長と考え入室時・トイレ誘導・入浴時等の声掛けに留意し、入浴時は同性介護とし、自立している方のトイレ支援は、外から声かけをする等プライバシーに配慮している。親しい関係になっても、一人ひとりの人格を尊重し、尊敬とは何かを常に意識して支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や支援をし、ご本人のしたい事や食べたいものなどを聞き、自己選択し決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースに合わせて、午睡や自室でのテレビ鑑賞など、寛ぎの時間を作っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの身だしなみや、おしゃれが出来るように、その都度本人の希望を聞き、必要なものを買に行ったり、おしゃれを楽しめるように援助している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週、お好みのメニューを聞きながら作ったり、誕生日には好きなメニューを取り入れている。食事の準備や片づけなどは、声掛けをし、手伝ってもらい、本人の気分が乗らない時は本人の意向を尊重している。	メニューは事業所で作り、食材は近所の商店やスーパーで購入している。出来る方は、食材の購入や下準備、料理の盛り付け等をしている。誕生日には本人が好きなメニューにしたり、「お任せ日」には職員が利用者のリクエストに応じている。外食も月1回以上は取り入れ、食事を楽しみとしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム青葉町日和

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		利用者一人一人の状態に合わせて、刻みやミキサー食など、食べやすい形態にし、むせやすい方は、トロミ対応を行っている。ココアや紅茶なども取り入れて、こまめに水分摂取をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		毎食後、口腔ケアを実施し、月に一回、主治医の歯科医師に往診に来てもらい、義歯の調整やクリーニングを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		一人一人の排便チェックを確認し、その人に合った時間誘導をしている。尊厳を守りながら排泄の自立を促す声掛けをしている。		一人ひとりの排便をチェックし、ケース記録に記入している。個々の排便リズムを把握し、職員間で共有している。布パンツやリハビリパンツを使用し、自分でトイレに行ける方が半数以上いるので、過剰に誘導しないように配慮して。夜間は睡眠に合わせて声掛けをして、トイレで排泄が出来るよう支援をしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		主治医と相談し、内服のコントロールの場合もあるが、運動量や水分量を確認し、排泄のリズムを整え、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている		本人の希望を尊重し、入浴できるように対応している。失禁などに応じては、入浴方法を合わせるようにしている。		希望があれば、月曜日から土曜日まで入浴できる。その都度確認して、無理強ひすることなく、希望に沿った入浴ができるようにしている。好みのシャンプーやリンスを使ったり、季節により入浴剤やゆず湯を楽しんでいる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		就寝時間は利用者の生活習慣に合わせて、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		服薬については、専門医と相談し内服している。副作用も情報を共有し、スタッフ全員に申し送りノートで伝えている。食前食後も、個別に配薬し、スタッフ同士で声掛け、確認し、間違えないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		レクリエーションや外出行事を計画に取り入れ、本人の嗜好品や楽しみごとを聞き、気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		年に二回、家族の参加を願ひし、外出したり、気分転換を図れるようにしている。		一人ひとりの希望や楽しみごとに合わせて、買い物や散歩で毎日戸外に出る機会がある。ランチに出かけたり、庭で食事をしたり、お茶を飲んだりすることもある。地域の祭りや運動会に参加する時は、地域の方の協力が得られている。年2回は家族と共に、外出する機会がある。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		百円均一や花屋などのお店へ出掛け、自分のお金を持ってほしいものを買う楽しみを味わえるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム青葉町日和

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話が入ったり、本人の希望により家族へ電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すため、季節に応じた飾り付けをしている。夜間は廊下の電気を暗めに調光したり、夜間のトイレの利用も安心できるように、調節も行っている。	玄関には花の鉢植えやクリスマスの小物が置かれ、家庭的な雰囲気がある。廊下の突き当たりには椅子やテーブル、本棚があり、医師の往診時や、利用者が自由に使えるスペースになっている。壁面には季節の作品が飾られている。キッチン是对面式で居間兼食堂にはテレビが置かれ、食事や日中活動で利用者が集う場所となっている。トイレ・浴室は清潔に保たれ、車いす対応の広さもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置をその都度工夫し、仲の良いもの同士で話したり、過ごせるような空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を用意してもらい、その人らしい暮らしが続けられるような配慮をしている。	窓は南側に面して明るく、ベッド、冷暖房機、洗面台は備え付けである。タンス、椅子、テーブル等は各々の好みを備えてあり、制作したクリスマス飾りが置かれている。写真の他に、俳句や花の雑誌、自分で書いた文章、花の絵、風景画等が置かれており、利用者の趣味や得意なものを活かした居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりに合った自立の声掛けを行い、援助している。時間をかけて出来ることも多い為、それを奪わないような配慮をし、支援を行っている。		